

テレビがつまらないのは何故？ —あなたの知らない放送の世界—

『クローズアップ現代』の国谷弘子さん、『ニュース23』の岸井成格さん、『報道ステーション』の古舘伊知郎さんをはじめ相次ぐ人気キャスターの降板、高市総務相の「電波停止もありうる」発言など、放送メディアの独立性は危機に瀕しています。報道の自由、言論表現の自由が脅かされる今、放送の現場では何が起きているのでしょうか？

「最近のテレビは面白くないね…」視聴者のテレビ離れが進んでいます。テレビ番組の質が低下している原因はどこにあるのでしょうか？

視聴率至上主義に走り、コスト削減のみ追求する民放経営者。差別雇用、成果主義賃金、長時間過密労働、パワハラ、セクハラ、陰湿ないじめで、心身とも破壊されていく放送人。放送の現場、そこは現代の蟹工船なのかもしれません。

日本テレビアナウンサー、政治記者、フリージャーナリストとして40年近く放送の現場を歩んできた小山田春樹さんが、自身の体験をもとに放送メディアの問題点と改革の課題について提起し、共に考えます。



講演者からのメッセージ

私は民放キー局のアナウンサー、報道記者、フリーのジャーナリストとして長年放送現場で仕事をしてきたが、報道の自由、言論表現の自由が危機的状況にある状況に強い危機感を持っている。

「危機に瀕する放送メディアの独立性」とのテーマで、京都で講演を行った際に多くの方から様々な質問を受け、放送メディアへの関心の高さをあらためて実感するとともに、一般視聴者には知られていない放送現場の実情をもっと知ってもらわなくてはならないと痛感した。

そこで、交流の広場で、放送現場の本当の姿と問題点、その背景、改革の展望などを講演し、それをもとに参加者のみなさんと討論をする場としたいと思う。「まず、放送の現状と問題点を知ってもらい、問題意識を持っていただきたい」というのが、放送人である私の切なる願いだ。

講演者（小山田春樹さん）プロフィール

1953年神奈川県逗子市生まれ

1977年日本テレビ入社

- ・アナウンサーとしてニュース、プロ野球中継、バラエティ番組『うわさのチャンネル』など担当
- ・報道部記者として自治省、文部省、自民党など担当

1986年日本テレビを退職 フリーで活動

- ・情報番組のリポーター、キャスターなどを担当

7月31日（日）13:15～14:30

エル・おおさか 6階大会議室（講師：小山田春樹さん）

●お問合せ：090-8384-5984（杉谷）

●参加費について他

本講演は、2016ZENKO in 大阪（7/30～7/31開催）の「交流のひろば」の1企画として開催されます。2016ZENKO in 大阪の詳細は、ホームページを参照ください。